

認知症対策について

林 昌子 議員

質問 認知症の治療に、薬に頼らない音楽療法、回想法、運動、心理療法等による非薬物療法が効果があると考えられています。また、認知症の早期発見に、タッチパネル式コンピュータによる物忘れスクリーニング検査を導入している自治体もあります。そこで、本村の認知症対策として、このタッチパネルの導入と、認知症サポーター養成講座の更なるスキルアップを考えるはないか伺います。



答弁（保健福祉部長） 認知症サポーター養成講座は、老人クラブやボランティア団体等に出向き出前講座をし、認知症を理解し、介護予防のためのアドバイスや日常生活の参考として実施しています。また、認知症疾患医療センターとして、県内に7医療機関、県南では2医療機関が指定されています。この10月に第1回の茨城県県南認知症疾患医療センター連携協議会が開催されます。今後は、指定医療機関の教授や医師よりアドバイスをいただき、連携を重ね認知症予防のための施策を検討します。

答弁（村長） 阿見町でも認知症予防の取り組みをしているという事で、お互いに活用し進めていきます。タッチパネル式の検査につ

いても、導入しても利用者が少ないと効果がないので、担当課で情報を捉えて、検討も踏まえ進めていきます。

鳥獣対策について

質問 農家や家庭菜園の農作物にカラス・タヌキ・ハクビシン等による被害が増加していますが、これらの被害に対する対策を伺います。

答弁（経済建設部長） 基本的な考えとしては、個人で防除をしていたくことになりませんが、個人ではできないとなったときに、行政が駆除ということになるかと思えます。また、共済組合の補助ですが、作物によって補償されるものが決まっています。防除や駆除の前の段階として、野生動物が安易に餌を採りにくくする環境づくりも対策の一つと考えます。

答弁（村長） 家庭菜園の部分では難しいが、被害が地域、地区に大きく広がる場合は、村だけの対応ではなく、県にも要望し解決を図ります。わなの貸し出しということに関しては、被害が大きくなってくれば村で用意をし、狩猟の資格がある方に貸し出すことも検討します。



鳥獣被害への対応を